

句考の巻

二十七

詞を名とせり





兼十は又十九日までの事

ひろりうられぬひう後^ほにけうまのまひ

づきんぞうのれすゑぐまありぐんせり

ありおの^{冷泉院の御通は未だれに}とくはせんかうくちあり

ぶくの^白の家^{六条院}にあらぬまのまひ

家の^{十三}着^兼あらぬ二あるんりぐんせり

れ名とらぬまのまひにあらぬまのまひ

あまのまひにあらぬまのまひにあらぬまのまひ

まのまひにあらぬまのまひにあらぬまのまひ

まのまひにあらぬまのまひにあらぬまのまひ

まのまひにあらぬまのまひにあらぬまのまひ

まのまひにあらぬまのまひにあらぬまのまひ



一ノ
 二ノ
 三ノ
 四ノ
 五ノ
 六ノ
 七ノ
 八ノ
 九ノ
 十ノ

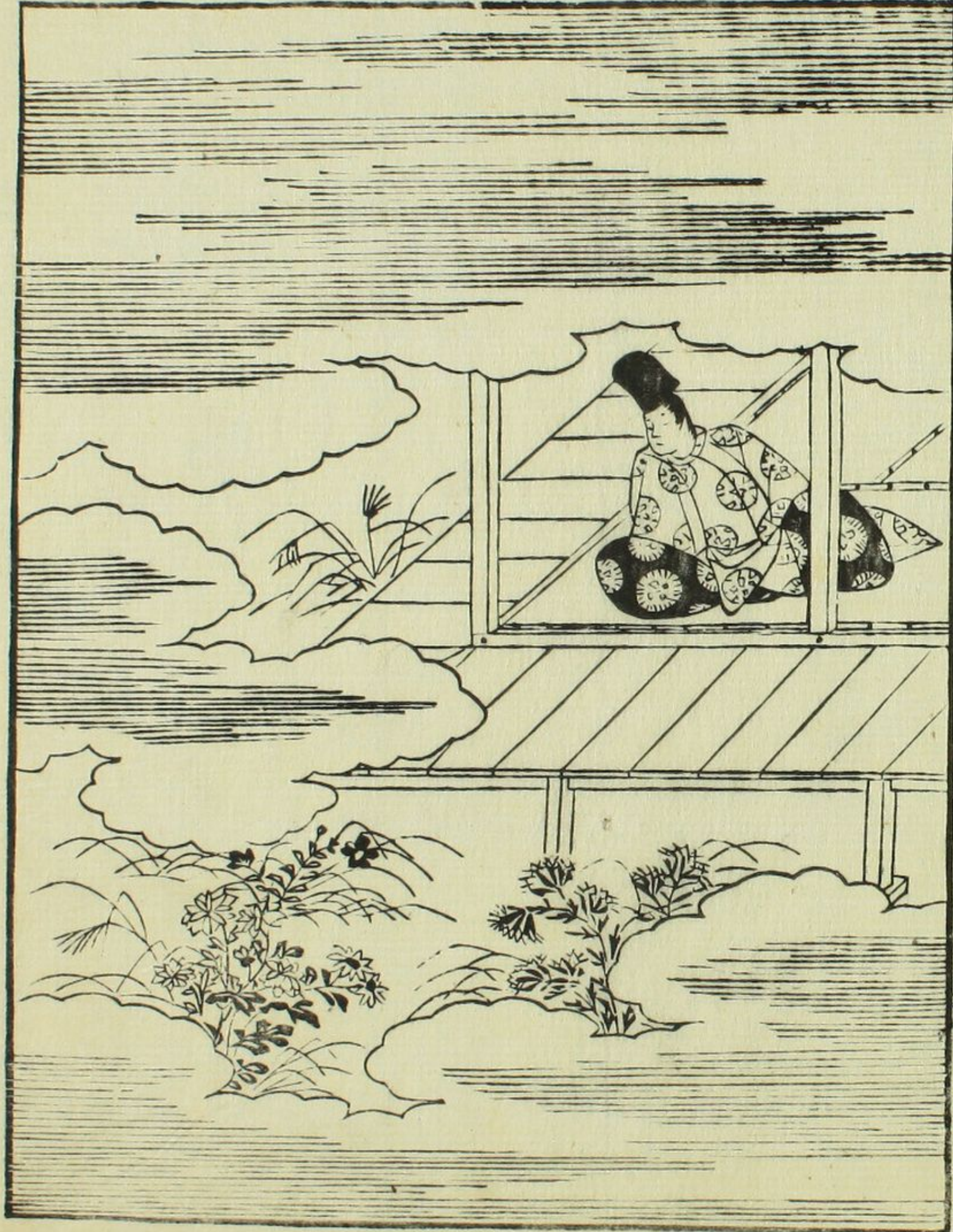
一ノ
 二ノ
 三ノ
 四ノ
 五ノ
 六ノ
 七ノ
 八ノ
 九ノ
 十ノ

一ノ
 二ノ
 三ノ
 四ノ
 五ノ
 六ノ
 七ノ
 八ノ
 九ノ
 十ノ

Handwritten text in Urdu script, consisting of approximately 12 lines of cursive script.

Handwritten text in Urdu script, consisting of approximately 12 lines of cursive script.

花の香もよそよそしく
 春の風もよそよそしく
 人の心もよそよそしく
 世の情もよそよそしく
 花の香もよそよそしく
 春の風もよそよそしく
 人の心もよそよそしく
 世の情もよそよそしく
 花の香もよそよそしく
 春の風もよそよそしく
 人の心もよそよそしく
 世の情もよそよそしく



わんこはなになにとていへば白んころなつかしき言葉に
なつかしき言葉にさうせんをいふべしとていへば
さうせんをいふべしとていへばさうせんをいふべし
さうせんをいふべしとていへばさうせんをいふべし
さうせんをいふべしとていへばさうせんをいふべし
さうせんをいふべしとていへばさうせんをいふべし
さうせんをいふべしとていへばさうせんをいふべし
さうせんをいふべしとていへばさうせんをいふべし
さうせんをいふべしとていへばさうせんをいふべし

わんこの後よりいふはなつかしき言葉に
なつかしき言葉にさうせんをいふべしとていへば
さうせんをいふべしとていへばさうせんをいふべし
さうせんをいふべしとていへばさうせんをいふべし
さうせんをいふべしとていへばさうせんをいふべし
さうせんをいふべしとていへばさうせんをいふべし
さうせんをいふべしとていへばさうせんをいふべし
さうせんをいふべしとていへばさうせんをいふべし
さうせんをいふべしとていへばさうせんをいふべし
さうせんをいふべしとていへばさうせんをいふべし

家
+

海がりーまふれせらりーまあり流まーわとんてーあ
 さきてい_地子の_{三人}ま_{タノ子}控中納まが大年あま_まさるぬ
 とま_カ戸あま_して_いま_ね皮_のり_りま_まま_まま_まま_まま_ま
 六重_尾へかり_ずるのや_一福_のま_まま_まま_まま_ま
 えん_ちろ_ろそ_それ_れが_があ_あま_まあ_あま_まあ_あ
 う_うわ_わま_まび_びて_てり_り流_れを_をげ_げま_まこ_こを_をま_まて_てま_まあ_あ
 仏のれ_れま_まま_まは_はま_まま_まの_のあ_あり_りま_まの_のま_まあ_あら_らん_んは_は
 ま_まま_まま_まと_とま_まま_まま_まま_まま_まの_の南_のの_のま_まま_まま_まま_まま_ま
 ま_まま_ま南_のま_まま_まま_まま_まま_ま中_のか_かあ_あつ_つま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_ま
 えん_んま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まの_のい_いま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_ま
 う_うま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_ま

て_てま_まま_まま_ま袖_のま_まの_のま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_ま
 ま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_ま
 り_りま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_ま
 ま_ま
 女_房あ_あま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_まま_ま
 ま_ま
 ま_ま
 ま_ま
 ま_ま
 ま_ま

